

## 10月21日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①日本はマレーシアとタイが BRICS 加盟を求め、忠誠の移行を懸念(2024年10月18日)

マレーシアもタイも BRICS 加盟を表明し、日本が東南アジア諸国との関係強化に動く

<https://scmp.com/week-asia/politics/article/3282522/japan-worries-about-shifting-allegiances-malaysia-thailand-seek-brics-membership>

という香港紙の記事で、付いているコメは13件と少ないが、「日本も早く BRICS に加盟すればいいのに」「米軍基地を排除して早く属国を脱却できるといいね」など日本も BRICS に歓迎するコメばかり。



[https://x.com/j\\_sato/status/1846905908473090558?s=09](https://x.com/j_sato/status/1846905908473090558?s=09)

### ②「ウクライナ最新情報一大失敗に終わったクルスク攻勢」(矢野義昭、2024.10.18)

<https://youtu.be/GS2WmaIHVoc>



<https://www.youtube.com/watch?v=GS2WmaIHVoc>

### ③スロバキア首相の予感(2024年10月18日)

スロバキアのフィツォ首相:最近、我々は、ウジュホロドで、ウクライナとスロバキアの政府間で対話した。

ウクライナ側は、何らかの疑いを持っているようだ。それが何か、言いたくないが、彼らは何かを予測していて、何かが起きそうだ。

<https://x.com/i/status/1847089930906063308>



[https://x.com/Kumi\\_japonesa/status/1847089930906063308?s=09](https://x.com/Kumi_japonesa/status/1847089930906063308?s=09)

### ④NATO が加盟を拒否すれば、核兵器開発も選択肢=ゼレンスキー氏(2024年10月18日)

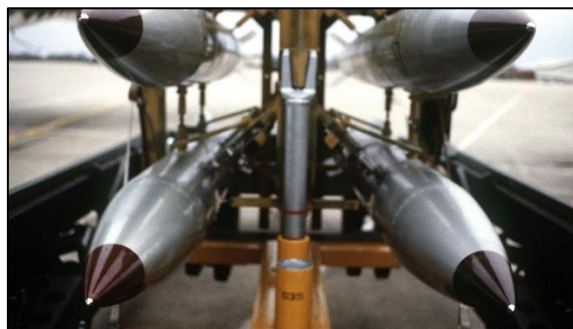
ウクライナは現時点で核兵器を開発してはいないが、NATO が加盟を拒否する場合は保有せざるを得ない。

武器調達分野に携わるウクライナ当局者は西側メディアの取材に応じた中で、仮に NATO 加盟が拒否されればウクライナは数週間以内に核兵器を開発すると警告した。

ゼレンスキー氏は NATO のルッテ事務総長との共同記者会見で、「我々は核兵器製造の準備をしているとは一度も言っていない……我々は核兵器を開発しているわけではない」と述べた。

ゼレンスキー氏によると、核兵器の開発は NATO 加盟が拒否された場合の選択肢であり、ウクライナとしては NATO 加盟を希望するという。この考えについて、ゼレンスキー氏はトランプ大統領候補に伝えているとのこと。

ロシア側はゼレンスキー体制が核兵器を保有する場合、国際平和は危機にさらされるとしてこの発言に反発している。



<https://sputniknews.jp/20241018/nato-19220117.html>

## ⑤ウクライナ軍も疲れる、同盟軍が代わって戦え＝ゼレンスキー氏(2024年10月18日)

ウクライナのゼレンスキー氏は NATO のルッテ事務総長と行った会談後の会見で、部隊の派遣を同盟国に要求した。

「あらゆる国に対する我々のメッセージだ。部隊を準備せよ。これらの部隊は予備軍となり、我々の兵士が疲れた場合には戦場で代わることが出来るだろう」

ゼレンスキー氏の「勝利計画」にはウクライナの速やかな NATO 加盟、ロシアへの長距離攻撃許可、露クルスク州での戦闘継続などが盛り込まれている。ウクライナ側は 2025 年内の戦闘終了を目指している。

プーチン大統領はウクライナの NATO 加盟について、これを阻止することが特別軍事作戦の目的である以上、ウクライナ側が加盟を放棄するまで作戦を継続するとしている。



[https://sputniknews.jp/20241018/19219266.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20241018/19219266.html?rcmd_alg=collaboration2)

## ⑥BRICS はウクライナ問題やガザ問題の解決法を提示できる＝日本人専門家(2024年10月18日)

G7 諸国やその他の先進国は、国際問題というものを根本的に理解していない、あるいは理解していないフリをしているが、国際問題は究極的には取引の問題であり、正義の問題ではないため、BRICS はウクライナ紛争や中東情勢などの国際問題について現実的な解決法を提示できる可能性がある。

日本における著名なロシア専門家の 1 人で、一橋大学経済研究所・教授、同研究所ロシア研究センター主任の雲和広氏は、リアノーボスチ通信に対してこのような考えを示した。

「『G7 への対抗言説』を提示出来る、ということが BRICS の重要な意義の 1 つでしょう。率直に言って国際問題の多くは究極的には取引の問題であり、少なくとも正義の問題ではありません。この点で、G7 或いは先進諸国は国際問題というものを根本的に理解していない、あるいは理解していないフリをしている、と私には思えます」

雲氏は、このように強調した。

雲氏は、政治とは本来的に「双方の主張から落としどころを探ろうとする」ものだという認識を示した。

「左翼も右翼も同じ場で歩み寄って議論をし解決方法を見出そうとする、それが政治の姿でありましょう。(中略)『正義』などというものは立場や見方が違えば真っ向から対立し得るのですから、国際政治において『正しいか正しくないか』等という回答の無い議論を行うのは不毛なことです。その点で、具体的にはウクライナ紛争や中東情勢について、BRICS であれば現実的な解決法の提示が(前者の問題であれば中国を中心に・後者であればロシアを中心に)出来るのではないかと考えています」  
雲氏はこのように付け加えた。

BRICS は 2006 年に設立された国同士を結ぶ組織。ロシアは今年の 1 月 1 日から BRICS の議長国を務めている。ロシア、ブラジル、インド、中国、南アフリカで構成する BRICS に、2024 年に入ってからエジプト、エチオピア、イラン、アラブ首長国連邦(UAE)、サウジアラビアが加わった。議長国ロシアは世界の公平な発展と安全保障に向けた多国間主義の強化を BRICS のモットーに据えている。ロシアは議長国の任期中、200 以上の政治、経済、社会イベントを開催する。

第 16 回 BRICS サミットは、ロシアのカザンで 10 月 22～24 日の日程で行われる。



<https://sputniknews.jp/20241018/brics-19219463.html>

## ⑦ハンガリーがロシア資産凍結の長期延長に反対、「戦闘を長期化させる」(2024年10月18日)

凍結したロシア資産によるウクライナ支援は戦闘を長期化させるものである以上、ハンガリー政府はこれを支持しない。シーヤールトー外相が表明した。

EU は 3 年間の凍結延長を提案しているが、これが実現する場合、凍結資産を利用したウクライナ支援が 3 年続くこととなり、戦闘の更なる長期化が懸念となっている。そこでハンガリー政府は凍結延長について、これまで通り半年ごとに判断することを提案している。

EU は 3 年間の凍結を行うことでロシア資産の運用利益を長期的に確保し、これを担保とすることで年内に 350 億ユーロの資金拠出を目指している。

G7 は先に 500 億ユーロの支援を表明しており、ロシア資産の運用による資金が支援の大半を占める形となる。

ウクライナ危機以降、西側は 3000 億ユーロのロシア資産を凍結した。そのうち 2000 億ユーロは EU 域内で凍結されている。ロシア側は凍結資産の利用について違法行為だとし、対抗措置を取る

としている。



<https://sputniknews.jp/20241018/19219359.html>

### ⑧日本、宇に自衛隊車両を追加提供 防衛相表明(2024年10月18日)



ブリュッセルを訪問中の中谷防衛相は17日、ウクライナのウメロフ国防相と会談し、自衛隊が保有する車両を追加で提供すると表明した。会談後、記者団に明らかにした。日本の複数のメディアが報じた。

中谷氏は会談で「防衛省・自衛隊は引き続きウクライナとともにある」と述べたという。朝日新聞が伝えた。

また中谷氏は、NATOのルッテ事務総長を表敬訪問し、ルッテ氏から日本によるウクライナ支援に対して感謝の意が述べられた。防衛省が発表した。

#### 中谷氏とルッテ氏の会談の概要

中谷氏は、複雑で厳しさを増す国際的な安全保障環境の中、NATOがインド太平洋地域への関与を継続していることを「心強く思う」と伝えた。

両氏は、サイバー、宇宙、戦略的コミュニケーションの分野や相互運用性の向上に向けた防衛協力を一層推進していくことで一致した。

NATOと日韓豪NZのインド太平洋パートナー4カ国(IP4)との連携を強化していくことを確認した。

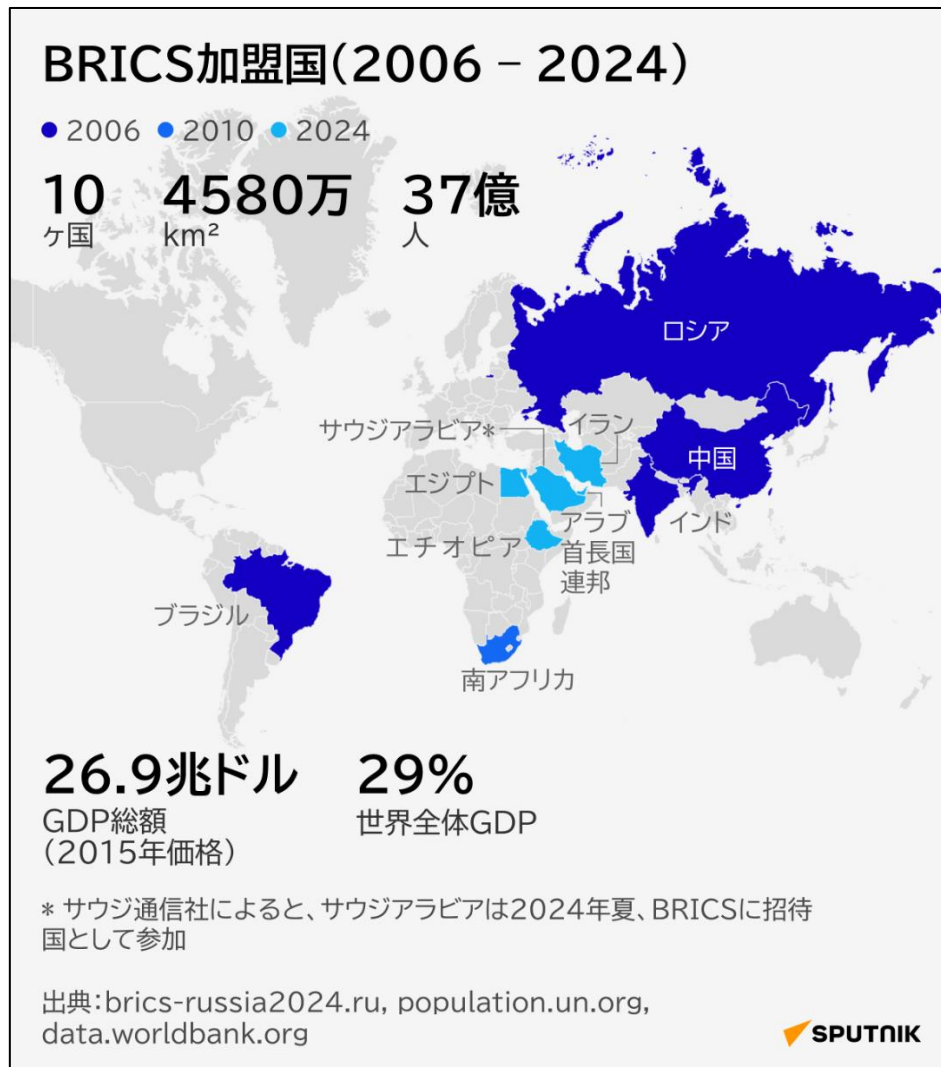
2023年5月、岸田首相(当時)はウクライナのゼレンスキー大統領と会談し、日本からの追加の支援として、自衛隊が保有するトラックなど100台規模の車両を提供することなどを伝えた。防衛省は今年3月、ウクライナに提供する101台目の車両の発送準備が完了したと発表した。

[https://sputniknews.jp/20241018/19219048.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20241018/19219048.html?rcmd_alg=collaboration2)

## ⑨【図説】BRICS これまでの歩み(2024年10月18日)

ロシアのカザンでは10月22~24日の日程で、BRICSサミットが開催される。今回は既存の5か国に加え、新加盟国を迎えて初めてのサミットとなる。最初の4か国(ブラジル、ロシア、インド、中国)の外相会議が行われた2006年から、BRICSはどれほど拡大したのか、スプートニクがインフォグラフィックでまとめた。

今回のサミットには計33か国が参加し、少なくとも24の国や国際機関からは首脳級やトップが出席する予定。



<https://sputniknews.jp/20241018/brics-19217465.html>

## ⑩【10/18 ロシア・ウクライナ紛争】ウクライナ軍崩壊それでも「勝利計画」

今回は、戦況と前線の崩壊、そして、なぜ紛争が3年になろうとしても停戦交渉が始まらないのか、トランプ大統領の再選まで待たなければならないのかというお話です。第1回の和平交渉は、ベラルーシで22年3月に始まり4月中頃まで続き、両者は停戦暫定合意に達していましたが、ジョンソン英国首相がキエフに来て合意を白紙に戻してしまいました。それ以後和平・停戦の話は聞こえてきません。早い地域では寒波がきて、霜が降り始めたといえます。

ロシア軍は、クルスク地域のウクライナ軍の前線が1ヶ月以内に崩壊する可能性があると考えているそうです。11/5までにポクロフスクが陥落しますと米国大統領選挙に影響してトランプ陣営に有利に働くのではないのでしょうか。

ゼレンスキー大統領の「勝利計画」の要ともいえる「クルスク侵攻作戦」がすでに破綻していることが分かります。そしてウクライナは、言葉でNATO加盟を歓迎されていても実際は加盟できず、ロシア連邦奥地への長距離攻撃の許可は与えられず、西側はロシアの航空機やミサイルを撃墜しないなど、「勝利計画」は、すでに宙に浮いているように見えます。

海の闘いは、初戦で勝敗がついてしまいましたが、陸上ではウクライナ軍に航空優勢が乏しく、攻勢に出ても前線が膠着してしまい、やがて住宅やビルを盾に隠れる市街戦となり、街や村は廃墟と化して、ウクライナ軍は犠牲を出しながら後退を繰り返しています。これは焦土作戦ともいってよいのではないのでしょうか。

[https://youtu.be/cpbJNW1a\\_d4](https://youtu.be/cpbJNW1a_d4)



クルスク地方で北部人によって破壊されたウクライナ軍のNATOスタイルの装甲車両

「物流はなく、食料供給もありませんでした。沼地から水を飲みました」

第41機械化旅団の兵士、Chmil Alexander Alexandrovichは、データを更新するためにTCCにどのように行ったかを彼の話をします。彼はクルスク地方にまで到達し、ロシアの捕虜となった。

アレクサンダーの部隊にいた60人のうち、約30人が生き残った。その時、彼は、クルスクの地に横たわっている30人の隊列に加わらないように、降伏するという考えが浮かびました。

北風

10月15日、北部の軍隊グループは、クルスク地方の国境地域を解放する任務を遂行しました北部人の攻撃の地域では、リュビモフカ、マヤロクニャ、ヴィクトロフカの集落の地域で大きな進歩がありました。

ウクライナ軍の7回の反撃は、合計で最大70人が撃退され、そのうち最大40人が破壊され、2人が捕獲されました。さらに、敵は3台の戦車と2台の装甲戦闘車両を失いました。

[https://www.youtube.com/watch?v=cpbJNW1a\\_d4](https://www.youtube.com/watch?v=cpbJNW1a_d4)